

とうきょう すくわく プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

福生杉ノ子保育園 実践紹介！

とうきょう すくわくプログラムってなに？

幼稚園や保育所において、子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、学べるよう応援する取り組みです。取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった豊かな心の育ちをサポートしていきます。

すくすく

すべての乳幼児の
伸びる・育つ

×

好奇心・探究心

を応援する幼保共通のプログラム

東京都

「非認知能力」の育成等、乳幼児の成長・発達をサポート

なんで？ どうして？

できるかな？ こうしてみよう！

できた！ 今度はあれをやってみようかな

好奇心を持つ
きっかけを増やす

考えを広げる

考えを深める

すくわくプログラムはどんなことをするの？

安全安心な環境のもと、子供たちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

非認知能力とは

- | 自己にかかわる心の力 | 社会性にかかわる心の力 |
|------------|-------------|
| ●自尊心 | ●心の理解能力 |
| ●自己肯定感 | ●共感 |
| ●意欲 | ●思いやり |
| ●粘り強さ | ●協同性 |

テーマに関する子供たちの考えやイメージを引き出すための問い（例：〇〇ってなあに？）を考え、素材や道具を準備し活動を行います。

テーマ例：光・色・自然・音・泥遊び・絵本など

豊かな心の育ちを応援
乳幼児期は、「非認知能力」を培う大切な時

東京大学大学院 教育学研究科 教授 同附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) 長 遠藤 利彦

子供が伸びやかに成長していくためには、無限大の好奇心に従って、心躍らせながら遊び学ぶことが重要です。また、同年代の子などと互いの個性を認め合いながら、1つのことに協力して取り組むことも大切です。この認識のもと、東京都と CEDEP は、「とうきょう すくわくプログラム」の支援に連携して取り組んでいます。



とうきょう すくわくプログラムは
こちらからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。



社会福祉法人志芳福社会
福生杉ノ子保育園

電話
042-551-9175

所在地
東京都福生市志茂 47 番地 3



福生杉ノ子保育園で

3歳児
クラス



とうきょうすくわくプログラムに取り組みました

テーマ 音

子供たちが日頃から音に興味を持っているため、身近な音に気づき、「この音は何だろう？」という問いをもとに、聞こえてくる様々な音を表現する中で興味を深めていくことを目的としました。

活動① 音を探してみよう①

屋外にある音について、公園内を歩きながら、様々な音を探しました。

子供たちは、どのような物であれば音が鳴るかについて様々な仮説を立てていました。

太陽が近いから
(葉っぱが)
バリバリってなる



やわらかい木は
バキッと音がしない



落ち葉をちぎると音がすることを発見し、「おにぎりの音」などと表現していました。

枝で作った形を妖怪に見立て、「ひとつめ小僧はこういう音」など、その場にはない音も想像していました。



活動② 音を探してみよう②

前回の活動後、普段から音探しを楽しむ姿が見られるようになりました。そこで、1回目とは異なる公園で音探しをしました。

自由に歩きながら音探しをする一方で、静かに座ってみんなで集中しながら音を聞く時間も設けました。



静かに座って音を聴いたことで気がついたこと



遠いにお友達が
遊んでいる声が聞こえる

鳥の声
ひよひよって
聞こえた



活動を振り返って

子供たちが、葉っぱなどの音を「声」と表現していたのが印象的でした。普段の生活の中で気づかないような音についても、この活動をきっかけにして、「これってなんの音だろう？」と聞くようになると思います。



穴を掘って音を聴こうとする子供もいたり、どこから音がするかわからないからこそ、様々なことを試しながら音を探していました。